

研究実施計画書

① 発表演題名：閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対する術式選択と治療成績

② 発表者：JA 広島総合病院 外科 医師 柴田 浩輔

③ 研究等の対象および期間：

2020年1月1日から2023年7月31日までに当科で緊急手術を行った閉鎖孔ヘルニア嵌頓症例14例を対象とし、その術式選択・成績を、電子カルテから得られる既存の臨床データをもとに、後方視的に検討する。

④ 研究の目的

閉鎖孔ヘルニア嵌頓は生命に関わる疾患であるため、嵌頓時の治療選択の検討が必要である。当科で過去に手術を行った、閉鎖孔ヘルニア嵌頓手術の術式選択、成績を検討し、考察する。

⑤ インフォームド・コンセントについて

・介入を伴わない既存の臨床データによる観察研究であり、「日本腹部救急医学会倫理指針改訂版(2018年8月23日更新)」では、カテゴリーB1にあたり、倫理審査委員会の審査に基づく施設長の許可が必要である。過去の症例にさかのぼってあらかじめ承諾を得ることが困難な場合は、個人情報の保護規定遵守のもと、オプトアウトを利用することは可と記載されている。

・「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン」(2022年5月26日更新)でも、症例観察研究においては、同意を取得するための時間的余裕や費用等に照らし、本人の同意を得ることにより当該研究の遂行に支障を及ぼすおそれがある等の場合等には、「本人の同意を得ることが困難であるとき」に該当し、本人の同意を得ないで、個人データを第三者へ提供することが許容されると記載されている。

・該当患者の手術同意書には、診療情報、手術動画、写真などを学会発表などで使用させていただくことがあることを記載することで包括的同意を得ている。

⑥ 個人情報の取り扱い

成果の公表に関しては、「個人情報の保護に関する法律」に基づいて被験者の氏名や住所などプライバシーにかかわる事項は一切公表しない。

JA 広島総合病院 外科

柴田浩輔、田崎達也、香山茂平、杉山陽一、河毛利顕、山口拓朗、大塚裕之、田原俊哉、  
宮重直弥、山根 宏昭、中光篤志、佐々木秀

**【演題名】** 閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対する術式選択と治療成績

**【はじめに】** 近年、閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対しては、非観血的整復後の、腹腔鏡手術を含めた待機手術の有用性の報告が増えている。一方、緊急手術での術式選択は定まっていない。

**【対象】** 2020年1月-2023年7月に当科で手術を行った、14例の閉鎖孔ヘルニア嵌頓症例を対象とし、術式選択と治療成績の検討を行った。

**【結果】** 年齢は 82-103 歳。全例、女性。非観血的整復不能のため緊急手術を行った症例が 7 例、非観血的整復後に待機手術を行った症例が 7 例。待機手術の内訳は、TAPP 法 4 例、TEP 法 2 例、TIPP 法 1 例。緊急手術では全例、下腹部正中切開による開腹手術を選択し、3 例で腸管切除を行った。腸管温存が可能であった 4 例中 2 例で、腹膜外到達によるメッシュ修復術を行い、その他の緊急手術症例では子宮・卵巣による被覆を行った。待機手術では合併症がなかったが、緊急手術では 2 例が死亡した。

**【考察】** 非観血的整復が不可能な閉鎖孔ヘルニア嵌頓症例は成績が不良であるため、早期診断、整復の成功率の向上、緊急手術での至適術式の検討が必要である。

---